



たかやましポ



10月13日(火)、市役所で「健康寿命の延伸と医療費の適正化等に関する包括的連携協定の締結式が行われました。

この協定には、市民の健康づくりや疾病予防活動の支援、ジェネリック医薬品の普及啓発と医療費の適正化などが盛り込まれています。

富山市に本社を置く日医工(株)が令和3年2月1日(月)に、武田テバファーマ(株)のジェネリック事業と高

地域の健康と医療を守る



健康寿命の延伸と医療費の適正化等に関する包括的連携協定 締結式

山工場を取得する
ことを受け、今回
の協定締結に至り
ました。

日医工(株)の田村友一社長は、「富山と高山は昔から経済的な交流が深い地域。主力の工場を高山にもてることは非常に光栄です。今年創業55年を迎えるジェネリック医薬品の会社として、安心と信頼を大切に、市民の皆さんと一緒に考え、共に歩んでいきたいです」と話されました。

今年も「いってらっしゃい」



10月22日(木)、清見町牧ヶ洞の清見除雪センターで除雪出発式が開催されました。

これは、飛騨地域の道路を管理している高山国道事務所が毎年開催しているもので、本格的な降雪シーズンを前に、冬の道路交通の確保や除雪作業の安全体制の確認などを行うものです。

竹島大祐所長は「積雪は平年並みですが、昨年に見町牧ヶ洞の清見除雪センターで除雪が出発式が予定されています。地域の皆さんの生活や物流に影響が出ないように努めます」と話されました。

この日センターからは除雪トラック、ロータリー除雪車、除雪ブレードなどが出発式に参加した近隣の園児たちは元気に手を振って送り出していました。

清流へ想いを馳せて



10月26日(月)、市役所で「第42回全国中学生水の作文コンクール」の受賞報告がありました。

このコンクールは「水について考える」をメインテーマに募集されています。

今年、今年度は全国から9444編の応募がありました。そのうち、庄川中学校1年生の田口亜美さんの作文「後世につながる宝物」が見事入選を果たしました。

田口さんは、全国中学生水の作文コンクール「庄川」への想いを、実際に水を織り交ぜながら描写。作中、水がきれいなことは当たり前では無いことを強く訴えています。

応募のきっかけについて「作文を通して庄川の美しさを伝えたい」と田口さん。

地域の宝が次世代の心に残り受け継がれていきました。

災害に強いまちづくりに向けて



10月28日(水)、市役所で「濃飛乗合自動車(株)と濃飛乗合自動車(株)との協定」を締結しました。

近年、多発する自然災害において、避難者の方々が避難所を利用する場合には、3密を回避するなどの感染対策が求められることから、多くの避難施設が必要となっており、災害に強いまちづくりを進めていきます。

今後、災害時の避難場所の拡充など、災害に強いまちづくりを進めていきます。

この協定により、濃飛乗合自動車(株)は、山田町に新たに竣工した第二神殿や新待機所などを、また、濃飛乗合自動車(株)では奥飛騨温泉郷平湯地区で平湯バスターミナルを市の要請により避難所として利用できるようにしました。